



## 酸性雨が、体にかかるとどうなるの

### 酸性雨ができるのは

酸性雨は大昔から降っていました。火山の噴火や森林の火災、空気中の二酸化炭素によってできた、弱い酸性の雨です。

最近、問題になっているのは、人間の活動が原因になって降る、酸性の強い酸性雨です。工場や発電所などでは、大量の石油や石炭を使いますし、自動車は石油からつくったガソリンで走ります。石油や石炭などの化石燃料が燃えると、有害なガスが発生し、大気をよごします。これが、雨にふくまれて降るのが酸性雨です。

### 酸性雨の体への影響

酸性雨は、植物や建物などに、大きな被害をあたえるばかりでなく、人間の生活にも、大きな被害をあたえています。

その一つは、酸性雨によって「目が痛くなる」ことです。このできごとは、1974年の7月に、東京都、神奈川県、千葉県などでおこり、はじめて、酸性雨が人の体にも被害を与える、ということが確かめられ、酸性雨ということだが、このときから使われるようになりました。もう一つは、着ている物への被害で、「雨にあたらしたら色が変わった」とか「下に着ているものに色がうつった」などというものが、多いようです。

(監修・保志 宏)

